

五 一 受信〇〇六一〇 譯了〇七五一

電〇〇二〇〇三二

作機〇

譯始〇〇七一〇

電〇〇二〇〇三二

親作戦特別緊急  
展

沖繩特根

東通。佐通。鹿屋航空基地。小嵐山司令部

機密第〇一〇二三八番電 二分ノ一、二

宛 G F 參謀長 五 A F 參謀長 一 A F 參謀長 一 佐 銀 參謀長

次長

陸軍ハ×日（五月四日）ヨリ北方ニ對シ乾坤一擲ノ攻勢ニ轉ズルニ決  
セリ就而航空攻撃ノ目標ヲ左ノ如ク既定實施陸軍ノ攻撃ニ直接協力方  
一 希望申出アリ然ルベケ取計ヲ得度  
二 一二日三日兩日嘉手納沖及中城湾ノB O 爲シ得レバD O 徹底的掃滅  
三 攻撃開始後モ右ニ準ジ南協的攻撃ノ持續。

（東通註 G F 通報表示済一

一五七一六五 月一ヶ七日 佐通

1485

五二一受信二三五・譯了〇三一二電〇〇六七三作概〇

開始〇二三六

共

符

親至	局長	課長	主任	主事							
	A 東	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
	千	原	代	代	根	川	赤	川	永	田	中
	島	原	代	代	根	川	赤	川	永	田	中
	根	原	代	代	根	川	赤	川	永	田	中

機密第〇一二〇三六番電

第十二航空艦隊參謀長

發  
宛  
千島根據地隊司令官

通報 大本營海軍參謀部第一部長

千根機密第三〇一一〇番電關聯

貴方日下ノ最重要任務ハ敵ニ備ヘツツ千根兵力資材轉進ノ最安全迅速  
ヲ計ルニアリト認メアリ更進後ノ兵力配備等ニシテ重要ナル事項ハ要  
スレバ連絡スルニ付企圖秘匿ノ關係モアリ通信量ノ節約ニ就シテハ特  
ニ考慮サレ度。

通六一七呂二Aケ一一一 B 大湊 木村一福 田

1486

親至  
展急

譯了〇五五五一四二  
講始〇五二五

電〇〇六七一〇作〇

電〇〇六七二〇

機密第〇一二〇二番電

二分ノ六二

④ 聯合艦隊中・第一機動基地航空部隊△

④ 六航軍派遣通信隊

三二軍攻勢移轉構想左ノ通

一、主力ハ×日（四日ト豫定）黎明右正面ヨリ攻勢ニ轉シ大規模ナル各方面ノ攻撃開始ト相俟ツテ連續北方ニ對シ攻撃ヲ續行着天間東西ノ線ニ進出敵第二四軍主力ヲ擊滅ス

二、腹挺身隊（約一〇〇〇名）三日夜行動開始東西兩海岸ヨリ敵側背ニ投入主力ノ攻撃ヲ容易ナラシム

三、三日夜正面ヨリ有力ナル斬込隊ヲ侵入潜伏セシメ主力ノ突撃開始ト共ニ俄然立ツテ敵ノ火砲迫撃砲戰車作戰支林ヲ攻撃ス。

通六八一  
六八二  
六八三  
六八四  
六八五  
六八六  
六八七

佐通

通九四四  
一  
九三八

右二 A ケ十一 (B) G F 口

ラ 實施スベシ

一、U.N.D. 指揮官ハ爲シ得ル限リ三日以降特令ノ時機運用。日施偵察  
大作戦兵力チ速ニ九州方面基地ニ隕落セシム好形ウルシ一攻撃ヲ實  
施スベシ

G B 電令作第十四號

局長	作戦	五二受信
A	第一機動基地航空部隊、内南洋方面部隊、第七基地航空部隊	一二一七
B	展	電〇〇八二〇
E	軍	作〇〇八一九
J	海	本〇〇
F	車	概〇〇
G	工	
I	赤城	
D	赤井	

大海參一部

機密第〇二〇九四二番電三分ノ一二

三七日 G.B 指揮官ハ G.B 航空隊第4號ニ依ルア 増勢移動ノ五機ニ

改メ速ニ進出セシムベシ

四一 日 G.B 指揮官ハ G.P 航空隊第六五一號ニ依ル第4次丹作戰進

備兵力ヲ速ニ關東方面基地ニ移動七日 G.B ニ編入スベシ

七日 G.B 指揮官ハ右兵力ヲ戰況ニ應じ適宜區分シ準備出來次第遂  
次 P.W.ニ進出セシム内南洋方面部隊指揮官ノ作戰指揮ヲ受ケシム  
ベシ。

航作概本

觀作  
戰區  
被急

二三一〇三譯了〇〇一一〇電〇一二九三

參

符

第七基地航空部隊。七六二空  
大海上參。一部。聯合艦隊中

機密第〇一二一二一〇電

一 K E G B 天電令作第三號

第三次丹作戰出發基地ヲ底屋ニ定ム。

1490

一一三九

日本電七八七二二一 K E G B 五

三

受信  
開始

一八三〇年元月二日

譯了二〇一〇

電〇一  
元月七日

作

稿〇

# 軍令部

東通

一〇方面陸隊已、沙市方面在勤武官

機密第〇三〇九二一看電 一分ノ六ニ

二 K F 參謀長

宛 大海參一部長 人事局長 軍務局長 第十方面陸隊

第十方面陸隊機密第三〇一五一八番電附聯

通信編成ヘ左ノ通取計ヘレ度希望ナシ

一 前田（四六七）兼通信隊司令 大谷（二三三）副長 小山（赤）六

一 内務長兼分隊長 秋松（三二三〇）井上（赤四四八）各レ主分隊長 横田（シ一四六二）軍需長兼分隊長 山中（シ一二三四）主計長兼分

通一六〇四五 日二八十九（一八三六七・五〇）二二通

モンバ、佐藤  
雨 谷

1491

隊長川端（六四一〇）竹下（六六六一）森（六六四九）其ノ他二十

鈴乗組准士官以上ノ内通信隊附

二下士官兵ハ五十鈴乗員ノ大部約三五〇名反シヤガルヲ派遣隊二八〇

名クリスマス島派遣隊約一八〇名計八一〇名ヲ以テ編成

三作戦擔任地域テレホン州アリフアンガ州ヲ含ム以西ノジヤワ地區（リスマス島ヲ含ム）

四作戦主目的シヤガルタ臺灣防備強化バンドン、三總複廓海軍擔任正面

緊急防備築城強化。

局長	一課長	二課長	三課長	四課長	五課長	六課長
王勇	山岸	赤堀	永井	日向	水谷	佐野
B	I	C	G	H	F	D
E	J					

三 受信  
三〇〇 謂了一四二一電〇一三七〇 作 機〇  
謹始一三四五

作戦特別緊急

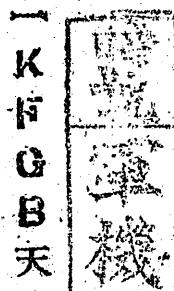
親是報

機

・ 鷹 羽 空 基 地

一、動基地航空部隊天號作戦部隊作戦命令着信艦所

機密第〇三一一一六番電



一 K F G B 天信電合作第二七二號

士部隊ハ準備出來次第發進 地點リハ〇コタ 中心トスル五〇浬半徑ヲ  
索敵スベシ。

通一五一〇呂一Aケ十一(九八三〇〇)佐廿放 木村(土 谷)

五  
三

受信一八一〇八譯了一八五〇

電〇一二五二一航作

本局〇



大海參一部・天一號作戰部隊

六航軍派遣通信隊

暗號機  
密文

機密文〇三一一三二番電 二分ノ一、二

四月六日以降三十日迄ニ於ケル飛行第八師團綜合戰果

六、轟擊沈B一又八〇二〇一〇一、大中B八油船船一 艘種不詳二  
云壓沈B又八〇一〇〇五〇又八〇一〇六不詳二

三、炎上日又八〇一〇三〇一大P三 不詳一

四、其ノ他大火柱四〇B又八〇機見後特攻ニテ誘導機ノ火柱ヲ撃滅セル  
キノ、以上壓沈被總計死五隻

五、飛行機壓沈ダラマン九機 損害自爆未歸還八九  
通一五九二 吕二Aへ九八三〇九二在二波

五

三

受信

始

二

〇

四

電

〇

五

電

〇

五

電

〇

本統

〇

作戦部隊總長板

鹿屋航空基地



七六二空・第七基地航空部隊△  
大海参一部・海军總隊口

機密第〇三一七五一番電

一 K E C B 天電令作特第一號

一、第七航空部隊指揮官へ好機第三次丹作戦ヲ決行スベシ

二、第四次丹作戦準備兵力ヲ第七基地航空部隊指揮官イ指揮下に入ル  
七

B G 指揮官ヘ遠ニ右兵力ヲ木更津基地ニ移動スベシ。

通一七四一呂一A(七八七五)K C K E G 放 厚木(雨 谷)

1495

元四 受信一七八五九 謝了一八四八。電〇二一三率

航作

本機

日軍  
現作  
緊急

宮崎航空基地

鹿屋航空基地  
美保航空基地

發 七六二空司令

宛

一 K E G B 天雷令作特第一號ニ依ル搭乗員（七五名）輸送ノ飛行便美  
裸（内一機宮崎經由美保着）ニ準備方取計ハレ度。

（東通註、？ハ脱作ト思ハル）

通二三九三 四一六（七八七五九）一 K E G B 放

五  
四  
受信一九二七 謂了三一三四 電〇一一一三

謂始一九五一

軍機處

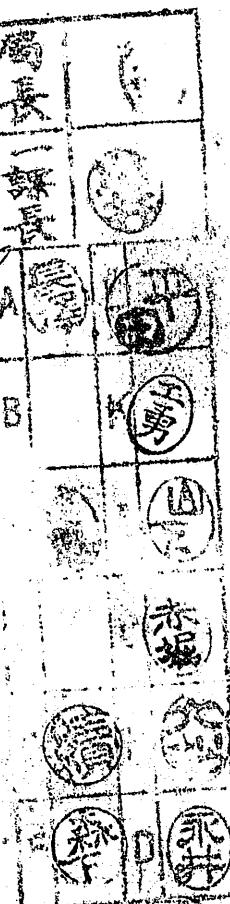
人事  
課課  
鎮海通信隊

東京通信隊

機密第〇四一七一八番電

軍機

發 鎮海警備府參謀長



宛 人事局長

通報 京城武官

鎮海警備府參謀長（政策）至急増員發令アリ度尙京城在勤武官

輔佐官へ一名ニ減員差支ナシ。

通一一四六一 由一Aケ十一（B）佐世保

木村（株） 海軍

五  
五

譯始一八二〇六

譯了一九〇〇

電至〇二七五六七

作業  
特攻  
施政

至  
急

共

符

聯合艦隊口

東通・聯合艦隊各口  
各艦各管・一五潛水隊ト

機密第〇四一七四五番電 六分ノ一、三三、四五六

通報 特攻部長 大海參一部長

先遣部隊戰闘報告第一二號（自三月二十七日至四月三十日第五次玄作

戰一

敵ハ三月二十五日廣良間群島三次デ 四月一日沖繩島ニ上陸シ同方面ニ  
多數人艦船ヲ行動ヒシメアルヲ以テ三月二十七日向天守攻多々良  
伊號第五十六潛水隊伊號等四十七潛水隊伊號第五十三潛水隊伊號第五十八潛水隊  
十四潛水隊一ヲ編成沖繩島附近泊地ニ突入之ガ奇襲攻撃ヲ決行ヒシメ  
タリ

通三〇〇四・三〇〇五・三〇〇六

呂アケ一一（B）吳

安川山

三

一、伊號第五六潛水艦ハ三月三十一日伊號第四四潛水艦ハ四月三日夫々  
 内海西部出立伊號第五六潛水艦ハ四月三日乃至十四日頃迄ノ間ニ嚴重ナル敵ノ警戒ヲ  
 潛水艦ヘ四月七日乃至十四日頃迄ノ間ニ嚴重ナル敵ノ警戒ヲ  
 冒シ沖繩島北西方ヨリ沖繩ニ西方泊地又ハ慶良間泊地突入同天搭  
 乗員伊號第四四潛水艦海軍中尉土井秀夫 海軍少尉亥角泰彦 海軍  
 少尉館脇孝治 海軍二等飛行兵曹官原彥五 伊號第五六潛水艦海軍中尉  
 福島誠二 海軍少尉八木寛 二飛曹川浪由勝 二飛曹石直新五郎  
 二飛曹宮崎和夫 二飛曹矢代清一 及魚雷二依リ突撃ヲ敢行ヒリ下認  
 メラルモ報告ナク情況沈明ナラズ四月二十一日吳歸投ヲ命シタル云  
 朱ダ歸還ヒズ

二、伊號四七潛水艦ハ三月二十八日内海西部出立案附中二十九日ヘ  
 本ト四五二於テ敵K.D.B.ニ遭遇水上艦艇ノ制壓ヲ受ク軍油タンク及  
 回天ニ被害アリタルヲ以テ吳歸投ヲ命シ四月一日吳歸六日多良  
 隆ヨリ陰キタリ

三、伊號第五三潜水艦ハ三月三十日周防灘ニテ觸雷修理ニ約二ヶ月ヲ要ス。被害アリタルヲ以テ四月六日多々良隊ヨリ除キタリ。

四、伊號第壹八潜水艦ハ三月三十一日内海西部出撃嚴重ナル敵ノ警戒至

フ冒シ沖繩島西方海面ニテ數回泊地侵入ヲ企圖ヒルモ敵ノ警戒至

嚴ニシテ回天ノ通信力竝ニ長時間潛行ハ不可能ナルヲ以テ四月十

四日回天攻撃ヲ中止ヒシメ沖繩島ト「マリアナ」ヲ結ブ線上三〇

○涅附近ニ於テ敵艦船ノ捕捉攻撃ニ任ゼシメ四月三十日吳ニ歸着

ヒシメタリ

## 五 戰訓

(1) 敵攻略部隊來攻ヒル場合潜水艦ノ回天ニ依ル沿地攻撃來攻後數日ノ間ニ決行スルヲ要ス敵ノ警戒至敵トナラバ成功ノ算

少ナギモト認ム

(2) 右ノ如ク回天ニ依リ沿地攻撃成功ノ算少ナギ状況トナラバ敵ノ警戒嚴重ナラザル洋上ニ於テ回天及魚雷ヲ以テスル航行艦襲撃

ニ移行スルヲ有利ト認ム

(3) 潛ノ警戒嚴重ナル海面ニ行動スル潜水艦ニハ是非共水中充電裝置ヲ裝備スルヲ要ス。

五  
五  
五受信  
始  
三  
〇  
〇諭了  
一  
三  
二  
五  
電  
〇  
一  
六  
〇航  
本  
統  
〇作戰  
緊急  
事第  
四  
艦  
隊

大海參一部・三航空艦隊・五航空艦隊

機密第〇五二〇一五番電

發 G B 參謀長

G B 電令作第一四號ニ依ル「P U」ニ偵察實施ヲ見込知ラサシ度  
 追テ増勢彩雲五機ヲ進出ハ目下ノ天候豫想ヨリスレバ七日發シ豫定。

通二八六九 吕二Aケー一( B ) a e 口 田中( 榛澤 )

譯文信  
一五二〇〇

譯了  
一六〇五  
三二一九

作戰

總無線電所用共通符號

緊急親展

海軍總隊司令

機密第〇六一三四八番電

音信  
軍令

海軍總隊參謀副長

一、本日攻撃隊の準備間二合ハズ七日實施ノコトニ決定セリ七日ノ責

動三四機、見込

二、作戦ノ都合ニ依リテハ小官ノ廣島行取止ニ致度。

通三五九七　呂一八九十一一〇二六五〇一五八四〇



六  
受信二二二五  
開始〇二四〇

電丁〇四四五元

電〇三五二四元

作概〇

緊急  
展

第三一通

機密第〇六一三五六番電 二分ノ一二

發總參謀長

宛  
通電先、威成波(尚武傳)  
參電第二二三號(威轉電號五二〇號)

大陸命第一三三號 主要旨

一、野戰高射砲第貳大隊野戰照空 第二大隊鐵道第八聯隊獨立有線第九六中隊ヲ南方軍戰鬪序列(直轄)ヨリ除キ第十四方面軍戰鬪序列ニ編入ス  
二、野戰高射砲第八九大隊ヲ第三七軍戰鬪序列ヨリ獨立有線第二三中隊獨立無線第十一七小隊獨立無線第一一八小隊ヲ第三七軍戰鬪序列中ノ第

通三八一八 三八三〇 吕「A」(六二三五〇)十通

(1)

四 通信隊ノ編成ヨリ除キ第一方面軍ノ戰闘序列ニ編入ス。

三 野戰高射砲第七六號大隊第一通信隊ヲ南方軍ノ戰闘序列（直轄）ヨリ

除キ第三五軍ノ戰闘序列ニ編入ス。

四 懸屬轉移ノ時期ハ五月十五日零時トス。

(二)

三

三

三

10

1100

11

卷之三

10

100

1

16

三

三

10

三

三

10

2

四

11

卷之三

一  
方  
面  
經  
院  
戶

東通・三一通・シヤカヒタ代櫻

卷之三

軍機處檔卷之六一八二五七

卷一百一十五

通報 二月五日長官 一二一四四〇一 シヤカルタ在勤武官  
在西獨海軍海軍處艦一六三〇西港ニ完了セリ 船體潛水艦ロ一八一  
八六二炮雷員士官二三 樂士官三〇 下士官兵一六〇 軍團八。

通三八〇八 由一A六七(六三三元)十通

海

軍

五  
九

受信 CC C M C O 説了 C 四五〇

電至 C 四四三二

本機

○

展

鹿屋

航空基地

大海參一部

軍總隊司令部・四艦隊

木更津航空基地

機密第〇八一五〇〇番電

八分ノ一、二、三、四、五、六、七、八

第三次丹作戰戰闘 情報

以

一六日一七一空彩雲二機ヲ テ一一〇〇鹿屋發都井岬一五三度十一七  
〇度間進出距離五〇〇浬索敵一二〇五地點「ワイニシ」テ浮上潛  
冰達一一五〇地點「ケラータ」ニテ飛行艇二機及一三二〇地點「シ  
フニス」ニテ P-1五一 八枚ヲ伴フ B-1二九 一機針路西ヲ認ム  
二七日八〇一空陸攻四機ヲ以テ C 三一〇發進佐多岬「レシニツ」「イ  
ハニク」「ケワニス」ヲ含ム海面ノ對岸制壓ヲ實施〇三五五地點「  
タカニイ」ニテ水上潛艇ラシキ反射波二ツ潜水〇四二八地點「タ  
イアーネ」テ潜水ラシキ反身沙ヲ夫々探知セルモ實体ヲ認メズ〇

五〇六地點「ンラミク」ニテ浮上海水艦ヲ發見六番四發投下セル  
效果不明

三七日二式大艇一機誘導及天候偵察ノ爲〇三二五訛間發〇六〇〇地點「シキータ」ニテ〇一二九〇四機及「イエヨ」ニテ〇一二九〇三

機ニ遭遇一四〇五地點「メク四エ」ニテ浮上海水艦ヲ發見銃撃效果不<sup>明</sup>二機共沖ノ島島迄進出仕務終了一七三〇迄ニ歸着

四丁七〇九陸攻二機誘導K四〇五銀河一九機〇六一〇ヨリ〇七〇〇

間ニ鹿屋發銀河一機離陸後發動機故障ノ爲笠ノ原附近ニ墜落自爆不<sup>明</sup>〇機途中ヨリ引返ス一出發遲レ追附カザリシモノ一翼増槽ノ燃料

引カザリシモノ三發動機不良ニ燃料消費量過大ナリシモノ一原因不明ナルモノ三内二機種子島着一八日鹿屋ニ歸投豫定〇一機宮崎着燃料補給ノ上七日夕刻鹿屋着一機未歸還誘導機二機及銀河八機ハ沖ノ鳥島附近ニ達シタルモ附近雲量九雲頂一五〇〇一ニ〇〇〇雲底四〇〇ニテ誘導機目標搜索ノ爲雲下ニ出デ沖ノ鳥島ヲ確認セシモ銀河

隊ハ編隊、爲雲下ニ出テ得ズ連絡ヲ失シ且斷雲ヲ突破セル際三機内一機未歸還一機ハ徳島ニ不時着八日鹿屋ニ歸投ノ豫定ノヲ見失フ更ニ〇八一〇地點「ルハニチ」ニテ追蹤シ來レル小型機一機及一〇三〇地點「ソヤニチ」ニ於テ北西進スル矣ハリケーンI機一機ヲ認メタルヲ以テ攻撃ヲ斷念シ一六三〇一一七〇〇鹿屋ニ歸投尙誘導機ハ沖ノ鳥島ニテ敵P B 二Y I 一機ヲ發見セルモ敵ハ外方ニ避退セリ被集自燃一機未歸還一機離陸時脚折損二機合計機材五機搭乗員三組。

(二)

五九

受信〇四三一 聞了〇六三〇 電〇四四一八

参航作  
本本概〇

緊急事  
件

件

聯合艦隊

東通・第一航空艦隊・南西方面艦隊

機密第〇八二一〇三番電



一一一 機



發 南方軍總參謀長

通報 大本營陸海軍部各次長  
威參一電第六六二號

敵次期作戦ノ判断上當方ニ於テハ比島方面敵根據地ノ偵察ヲ重視シ其當リ第四飛行師團兵力（在臺灣現有司偵二機軍偵二機）ヲ以テ週期的ニ「リエンガエン」「マニラ」方面ノ偵察實施ノ豫定ナルモ中南洋方面ハ「ボルネオ」濱北方面ノ戰況ト飛行機行動力ニモ關聯偵察困難人實情ニアリ「レイテ」方面偵察ハ貴隊ニテ實施方配慮ヲ得度  
通四九八九 命二八（六二五五四）十通 山田（森）  
田

五九

受信〇〇九一四四

譯了一一〇一

作

概



作戰緊急

展

沖根

佐通。東通。鹿屋航空基地

機密第〇九〇二〇九番電

五分ノ一、三四五

電報  
〇〇〇〇〇  
四四四五五  
五五五五五  
三〇〇〇〇  
六五五四三

GB化粧箱  
沖繩

1510

宛 佐鎮長官。軍令部次長 大本營海軍參謀部第一部長 G 參謀長  
第三二軍へ首里ヲ包含兩翼ヲ東西海岸ニ布陣スル現陣地帶ニ依リ飽  
久迄長期戦略持久ヲ企圖セル所兵力損耗次第ニ増加老成現狀ノ爲海  
軍部隊ヨリ機動可能兵力ヲ削キ現防備地區ヨリ首里方面ニ機動戦闘  
ニ参加セシムトスル計畫アリ  
本體へ第三二軍總攻擊命ニ從フハ當然ノトナルニ茲ニ特ニ慎重ニ  
考フハ于重大事項ハ右ニ隨ハバ主機動兵力トナルモノハ折角長期ニ

通五〇〇二八五〇三三、五一、Aケ七（七四六〇）カニケ谷

(一)

1511

直參軍城等ル多數兵器ニ水妥砲高角砲等地雷地雷化煙彈等一諸施設ヲ放棄シニ七耗大綱統ヲ主兵器ナル弱体化セムモトナルノミナカニ野戰機動ノ裝備、一圓匙ヲ一例ニ取ルモ無之トニ第一線ニ至リ新築陣地ガヘ堀リ得ズ陸軍ニモ供給餘力ナシト野戰ノ経験絶無爲輕端ニ戰力低下スペキ右機動兵力ヲ除ケ残置兵力ハ重火器ヲ使用スル能力無ク且掩護兵力無ク盾ヲ主隊トスル烏合ノ衆トナル結局海軍兵力シテ要塞ヲ放棄シ要塞兵歩兵トシテ使用スルノ愚ヲ敢ヘテ否ルモノニシテ第三二軍ノ要望ニ沿フガ如牛成果ヲ得ザルモノナリ本職ハ右兵力ヲ以テ現配備地區ニ就カシムル時ハ充分戰力を發揮シ得ルヲ確信シアリ今後共國土防衛ニ關シ海軍部隊ガ陸軍人指揮下ニ作戦スル事ト多カルベク今次第三二軍ノ企圖スル處ニ際ワコトハールソン島一飛行場ニ於テ海軍航空隊ガ過早多數ノ高角砲ヲ放棄シタル戰訓モ有之將來ノ先例トモナルベク慎重研究ノ要アリト認ムルニ就キ此ノ場合ノ處置ニ關シ何分ノ指示ヲ仰ギ度。

(二)



五 九 受信  
譯始一五三五  
電〇四六〇四 作概〇

緊急  
展報

支那方面艦隊口

東洋・聯合艦隊口

機密第〇九〇九一六番電

二分ノ一

宛 大海參一部

一、情勢ノ變化三件ヒ〇 S E 機密第一六〇九一〇番電（四月）通り際  
軍兵力轉用ノコトトシ支那派遣軍トノ間ニ別冊（後送）ノ通協定

チ了セリ

二、陸軍兵力轉進後ハ S E トシテハ機示現警備ヲ續行スル方針ナリ。

（（信謄註 本題二分ノ二未着）

通五二七八 日二A午十一（一四九三〇四〇）上海 中華（猪、狩）



五 九 受信一五一〇 謂了一七三〇 電〇四六二五 作概

書始一六二〇

緊  
急  
展  
報

支那方面艦隊白

東海・聯合艦隊白

機密第〇九〇九二六番電 二分ノニ

極力沿岸監視兵力ヲ整頓スルト共ニ海南ニ於テハ主トシテ三亞灣及  
海口海陸地三兵力ヲ集結スル計畫ナリ右二件ヒ黃流飛行場ヲ破壊致  
度内意ノ所差支ノ有無知ラザレ度

大海參機密第〇七一二二二番電

廈門根據地隊ノ駆進ニ關シテハ現配備ヲ備ヲ可トスル意見ナリ。

（電信課註 本電二分ノ一既配布）

選五十八六 條二Aヶ十一へ 一四九三

1513

元

一九〇〇年三月一日起至一月七八〇止作戰

作戰累急期晨

總無線電所用共通符號

海上護衛總戶

大海參一部。佐 銀。吳 銀

機密第〇九二一三二五三

壁 G B 參謀長

菊水六點作戰實施當日（十一日）豫定ス。黎明佐柏又ハ指揮所在、兵力ヲ以テ九州南方近海伏在ノ敵潛ヲ搜索制壓我行動ハ秘密ニ協力セシメラレ度。

通電書九一呂二A（四七四二、五九）云A

五 一〇

受信一一三八  
譯始一二一九

丁一二五六

電〇五〇二〇

航作  
本社

至志親農

高醫・沖繩根

大本營海軍部・佐藤口

機密第一〇〇八四八番電

二分ノ一二

機密 G E 參謀長

第三二軍參謀長

通報一〇方面軍參謀長

G 今後、作戦方針、航空可動全力ヲ以テ主トシテ沖繩周邊艦船ニ  
對シ、凱旋ナル攻撃ヲ繼續シテ之ヲ撲滅シトス必至也。ニシテ情況有利ニ進展シバ奄美大島群島及先島群島ニ航空基地を確立、巡洋艦、船攻撃ヲ強化スルト共ニ敵輸送船ヲ沖繩南東方海上ニ捕捉撲滅シ沖繩所在ノ敵ヲ孤立セシムルコト可能ナリト認メアリ。而シテ沖繩周邊艦艇、

1515  
四五七二・五五八〇 吕一A47(一〇二六五〇)五AHP

石垣・中島(飯田)

(一)

GB  
下、戰移走  
洋銀  
三三三  
四三  
四四

掃滅ニ成功ヒバ  
トシテハ貴軍ガ急速ナル兵力ヲ消耗ヲ避ケ堅陣ニ依リテ敵ヲ吸引シ  
飽ク迄強ナル作戦ヲ實施シ進展ヲ待タレシヨドヲ切望スル次第ナ

五 一〇 受信

一一五四

釋了二三二〇

電〇五一九

作成  
航本

譯始一

一〇四四

電〇五〇一九

緊急親属

總無線監所用共通符號

詫問空

機密第一〇〇八五二番電

一 K E G B 天電令作特第三號

詫問部隊ハ二式飛行艇二機ヲ以テメ日一特令ナクレバ十二日トス  
前回ノ要領ニ依リ丹作戰艦既偵察及攻擊隊ノ誘導ニ任ズベシ  
但シ  
沖ノ鳥島到達線北西方側九番二號目標彈投下間隔ラ五浬トス。

通五五五六 命一 A ク十一(二八七五)一 K E G B 放

五 一〇

譯始 一〇〇

譯了 一一四〇 電〇五〇一三

航作 機〇本

作戰緊急親展拔

吳鎮

吳防戰

海上護衛總口・佐伯空・九三一空

軍機

機密 第一〇〇 九三一空

電

吳防電令作第一回歸

吳防戰司令官・佐伯空・シテ・機密第〇九二一五二番電ニ依ル任  
務ニ從事セシムベシ

通元五元 吕一アケ十一 (日) 吳山田 (雨谷)

五 一〇 受信二二〇八

譯丁二三一五

電二五二七二 作綱○

謹始二二四〇

飛  
展

東

通

總無線所用共通符號

機密第一一四三〇番電

發  
大淀吉長

宛  
軍令部次長

本土邀撃作戦必勝ノ爲ニ一號ヲ速ニ完成之ヲ以テ特別攻撃隊ヲ大量  
編成ヒラルル要アリト認ム從來ノ特攻兵器ハ何レニ威ノ強力ナル防  
衛手段アリ又今後太平洋岸ニ於ケル附波性ニ不ヌアルモノアリ。

通五八四二 一八六二三五七二 吻通

1519

五  
一  
〇譯受信  
二〇〇〇電〇五一七三  
作本佐  
々  
良  
平佐  
々  
良  
平

九五一空ア・指揮空基地

海軍總隊口・一機動暴走航空部隊

機密第一〇一六二六番電

佐  
々  
良  
平

第九五一航空隊司令官ハ指揮滅道隊ヲシテ海陸總合作第四六八號所定ノ任務ニ任ゼシムベシ。

通五七九五呂一A(五二〇〇〇)、佐世保、福岡、諫田一

機  
作  
方

一一一受信〇〇一二四

譯了〇一二四 電〇五三四六

航概本〇

鹿屋航空基地

詫間・宮崎各航空基地

機密第一〇一七三三番電

號年機

KEGB天電令特第一號

第三次丹作戰 X日ヲ十四日ニ改ム。

三九五三、四一Aケ二(三九三七五KC)KEGB放

作  
成

受信二二四三 聞了二二三三〇 電〇五三四七 作概本

電〇五三四八 航概本

佐世保空基地

指宿空基地

海上護衛總口・鹿屋航空基地・佐  
々木

機密第一〇一八〇二番電 二分ノ一二

九五一空軍令作第一〇七號

指宿派遣隊ハ左ニ依リ G E B 電令作第四六八號佐鎮電令作第一九號ニ依

ル敵潛搜索制壓ヲ實施スベシ

一搜敵制壓海面ハ攻撃隊進撃路附近ヲ主トスルモノトシ K E G B 司令  
部ト連絡之ヲ決定

一部「下」區哨戒ヲ兼メ二段搜敵トス

通五八六四 天二四ケ二二 (五二〇〇〇) 佐通

1522

五

一一〇

受信二二五五  
電〇五三五四〇

譯了〇二二三

電〇五三五四〇  
令特機〇

第一一五根

緊繩

展急

第一〇

方面艦隊尸

通・高

機密第一〇一九二一番電

二分ノ一ニ

宛參謀長

通報軍務局長

昨九日二二三〇コロンボ「GZH」ヘ獨東京通信系電波ヲ以テ東京  
一八五六一ベナン「KHA」ヲ呼出英東印艦隊長官ノ名ヲ以テ在東  
亞獨潛脫出ノ命令並ニ其ノ實施要領ヲ獨平文ニテ打電セリ右ヘ同時  
刻ヨリ二時間ニ亘リ反覆セルモ「ベナン」ヘ應答セズ今後英若ハ獨  
通五八八六・五八九九　呂一Aケ一一(六年三五KC)十通

側ヨリ右策動シアルヲ豫期セラルニ付監視ヲ強化スルノ要アリ  
 獨武官ハ英ノ報復ヲ恐レ玄ヲ着信一出来レバ敵情判知増強ニシ  
 御配慮ラ得度

(電信課註 本電再配布前紙ト引換ラレ度)